



第127期  
事業報告書

2025/4/1 ▶ 2026/3/31

**KATO** 株式会社 加藤製作所

証券コード：6390

SL-250RV

## 株主の皆さまへ

株主の皆さまには、平素より格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

当社第127期の事業の概況をとりまとめましたので、ご報告申し上げます。

代表取締役社長

加藤 公康



### 経営理念

## 優秀な製品による 社会への貢献

### ■ 第127期（2025.4～2026.3）を振り返って

第127期は、中期経営計画『飛躍、そして次の時代へ』の初年度として、収益基盤の強化と将来の成長に向けた事業構造改革を推進してまいりました。

当期は、大型ラフテレーンクレーンの販売再開や新製品投入に向けた開発活動を進める一方で、収益力向上に向けた重要課題である在庫水準の適正化に重点的に取り組みました。

油圧ショベル等の一部製品において営業施策および生産調整を実施した結果、在庫は減少いたしました。適正水準の実現には当初想定より時間を要する状況となりました。これに伴う工場稼働率の抑制に加え、資材価格や物流費の上昇もあり、収益面では厳しい結果となりましたが、将来の安定的な成長に向けた経営基盤の強化は着実に進展しております。

開発面では、次世代ラフテレーンクレーンの新シリーズである「RVシリーズ」の第一弾として「SL-250RV」を販売開始したほか、新型油圧ショベル4機種についても第128期中の市場投入に向けた準備を整えました。また、海外事業ポートフォリオの見直しとして、中国子会社1社

の持分譲渡を完了するとともに、インドでの合併会社「ACE KATO Pvt. Ltd.」の設立準備を進めるなど、今後の成長に向けた布石を着実に打つことができました。

## ■ 第128期(2026.4~2027.3)への意気込み

第127期より推進している在庫水準の適正化は、進んでいるものの、まだ十分な水準には至っていないと認識しております。そのため、第128期においても、引き続き在庫販売を推進させるため、収益面では厳しい状況が続くものと見込んでおります。

一方、次世代ラフテレーンクレーン「RVシリーズ」や油圧ショベルの新型4機種等の販売を促進していくことで、営業黒字化を目指してまいります。さらに、かねてより準備を進めておりましたインドでの合併会社「ACE KATO Pvt. Ltd.」が第128期上期より操業を開始いたします。既存の現地生産体制、販売網およびサービス基盤

を活用することで、参入障壁が高いとされる市場においてもリスクを抑制しつつ、早期の収益貢献を図ってまいります。これらの新製品投入や海外での事業展開を通じて、市場競争力の向上に努めてまいります。

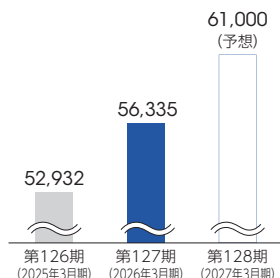
## ■ 株主の皆さまへのメッセージ

資材価格や物流費の上昇懸念など、当社を取り巻く事業環境は依然として厳しい状況が続いておりますが、これまでに推進してきた各施策は、当社が次の成長段階へ進むための重要な取り組みであると考えております。今後は、その成果を着実に業績に結びつけ、コスト上昇にも対応できる強固な収益基盤の確立に向け、全社一丸となって取り組んでまいります。

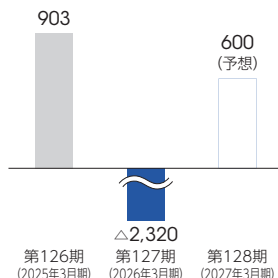
株主の皆さまにおかれましては、引き続き当社グループへのご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

## 連結業績ハイライト (単位：百万円)

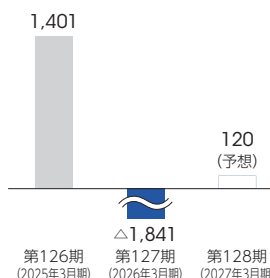
### ■ 売上高



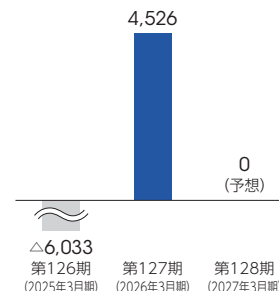
### ■ 営業利益



### ■ 経常利益



### ■ 親会社株主に 帰属する当期純利益



## 中期経営計画1年目の振り返り

当社は2025年度を初年度とする3ヵ年の中期経営計画を策定し、現在推進しています。その概要と進捗についてご報告いたします。

### 基本方針

#### ① 企業価値の向上

- 資本コストを意識した経営の実践
- PBR改善に向けた各種施策の実施

#### ② 成長戦略の推進と有効投資

- 前中計で種をまいた施策効果の確実な刈り取り
- 成長分野への戦略的投資

#### ③ 収益性の更なる向上

- 前中計で取り組んできた施策の深化による収益性向上
- 外的要因に左右されにくい強固な経営基盤構築

#### ④ サステナビリティ経営の実践

- サステナビリティ経営の強化による企業価値向上
- マテリアリティの推進

### 本中計の計数計画と初年度の実績

連結業績	2025年度（1年目計画値）	2025年度（実績）	2026年度（2年目計画値）	2027年度（3年目計画値）
売上高 (億円)	570	563	660	790
営業利益 (億円)	17	△ 23	25	36
営業利益率 (%)	2.9	—	3.7	4.5
ROE (%)	3.7	10.4	5.4	8.0

#### 1年目の振り返り

中期経営計画1年目は、米国および欧州での需要が低迷したものの国内向け大型ラフテレーンクレーンの販売再開により、売上高は、概ね計画水準で推移いたしました。一方、損益面については、在庫水準の適正化に伴う工場稼働率の低下、資材価格・物流費の上昇による製造原価率の上昇に加え、補用部品等の長期在庫に対する一過性の評価損計上もあり、営業利益等については計画を下回る結果となりました。なお、ROEについては中国子会社の持分譲渡完了に伴う特別利益計上により、10.4%となりました。

本中計資料の  
詳細はこちら



## TOPICS 01

## インド事業の進捗について

ACE KATO Pvt. Ltd. は今期中の操業開始を目指し、各種準備を進めております。



海外事業を中長期的な成長ドライバーと捉え、海外売上高比率の拡大を重要施策としております。特にインドは、世界最大規模の人口を背景に今後も高い成長が見込まれている市場です。ACE KATOは、ACE社の生産基盤と当社の技術力・製品開発力を融合させることで、市場競争力の高い製品を展開し、事業基盤の強化を図ってまいります。将来的には、当社が有する販売ネットワークを活用し、アジアや中東周辺諸国における市場シェアの回復や新たな市場の開拓につなげていく方針です。

## TOPICS 02

油圧ショベル“REGZAM”シリーズ  
新型4機種 販売開始

油圧ショベル“REGZAM”シリーズを刷新し、12～23tクラスの4機種を2026年7月より一斉に販売開始いたします。新型キャブの搭載により快適な作業環境を追求するとともに、従来より定評のある操作フィーリングにさらに磨きをかけるなど、作業効率・環境性能・居住性・整備性の向上を目指し、機体各部を見直した新規設計を採用しております。

今後多様化する現場ニーズに応える製品の開発に取り組んでまいります。



HD514MR-9

### SL-250RV



**SL-250RVの開発にあたって、  
どのような思いで取り組まれましたか。**

**Oさん** SL-250RVの開発では、「世代が進んだ」と実感していただけるクレーンづくりを強く意識しました。特に、オペレーターが直感的に操作でき、長時間でも快適に過ごせる居住空間としてのキャブづくりに注力し、KATOらしい使いやすさと快適性を感じていただけるクレーンを目指しました。

**Kさん** 実際に操作をするオペレーターの使いやすさを第一に考え、操作系を大きく刷新しました。一方で、KATOのクレーンが培ってきた「操作フィーリングの良さ」は継承すべきと捉え、電気制御レバーシステムへ丁寧に落とし込み、違和感のない操作性を実現しています。また、ポンプ制御システムも刷新し、作業燃費の向上にも取り組みました。

**SL-250RVの開発で、特に印象に残っている  
エピソードを教えてください。**

**Oさん** 機能向上とコストの最適化を両立させるため、多くのサプライヤーの皆様にご協力いただいたことが特に印象に残っています。例えば板金部品では、サプライヤーの設備や製造方法に合わせて、当社でも部品形状や仕様を見直し、より製造しやすい形状へ変更しました。こうした“作り手”と“開発側”が一体となったものづくりは、非常に印象深い経験でした。

また、開発段階では、私自身が一日中シートに座り、休憩もキャブ内で過ごすなど、実際の使用環境を想定した検証も行いました。オペレーターが長時間快適に作業できるかを自ら

体感しながら確認したことも、印象に残っているエピソードの一つです。

**Kさん** 特に印象に残っているのは、新しく構築した電気制御中心のシステムが狙い通りに動作した瞬間です。調整や検証段階では思うように動かず試行錯誤が続きましたが、各部門と連携しながら時間をかけて細かなチューニングを重ねました。最終的にスムーズな動作を実現でき、社内からも従来の「操作フィーリングの良さ」がしっかりと継承されていると評価を受けた時、大きな達成感がありました。

**今後はどのような製品を  
開発していきたいですか。**

**Oさん** 今後もオペレーターが使いやすく、安全に作業できる製品開発を進めていきたいと考えています。クレーンのキャブ内を“仕事場”として捉え、より快適に過ごせる空間へ進化させることが目標です。乗ること自体に魅力を感じ、「この車に乗りたい」と思っただけの製品を開発していきたいです。

**Kさん** 今後は操作システムや各種機能のさらなる高度化を図り、より安全で効率的な建設機械の開発を進めていきます。システムを最適化することで燃費性能を向上させ、環境負荷低減と運用コスト削減にも貢献したいと考えています。また、建設業界で深刻化する人手不足への対応として、省人化につながる技術開発にも注力し、遠隔操作など現場のニーズに合った価値を創造していきたいです。



Oさん

担当：キャブ設計

Kさん

担当：操作システム設計

## マテリアリティ（重要課題）のKPI

サステナビリティ経営を推進するため、2025年3月にマテリアリティ（重要課題）の各重点テーマに対する3カ年のKPIを設定しております。初年度の実績については、以下の当社サステナビリティサイトをご覧ください。引き続き、サステナビリティ活動の推進を通して持続的な成長を実現し、更なる企業価値の向上を目指してまいります。

詳しくはこちらから

▶ <https://www.kato-works.co.jp/sustainability/policy/>



## 太陽光発電設備の導入（マテリアリティ：持続可能な地球環境への貢献）

群馬工場の工場棟屋根の一部に当社初の太陽光発電設備を設置し、2026年6月に運用を開始いたしました。本設備の年間想定発電量は約276万kWhです。このうち、工場稼働日に発生する約166万kWhを自家消費する予定であり、これは群馬工場の年間使用電力の約6割を賄う見込みとなっております。さらに、休日等の工場非稼働日に発生する余剰電力については、卸電力取引市場等へ売電される予定で、売電された電力に紐づく環境価値（非化石証書）は、当社のCO<sub>2</sub>排出量削減分として計上されます。

2025年3月に設定をしたマテリアリティ（重要課題）の各重点テーマに対するKPIである「持続可能な地球環境への貢献・CO<sub>2</sub>排出量削減」にて、2030年度までにCO<sub>2</sub>排出量を2018年度比で38%削減するという目標を掲げております。太陽光発電設備を運用することで、この目標達成に向けた取り組みをより一層加速させるとともに、再生可能エネルギーの活用や省エネルギー対策を通じて、環境負荷軽減に貢献してまいります。



群馬工場入口外観



実際に設置された太陽光パネル

# 会社情報 / 株式情報 (2026年3月31日現在)

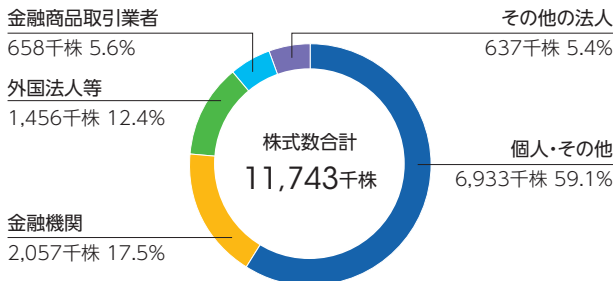
## ■ 会社概要

商号	株式会社 加藤製作所
英文商号	KATO WORKS CO.,LTD.
創業	1895年 (明治28年)
設立	1935年1月 (昭和10年1月)
本社	東京都品川区東大井1-9-37
従業員数	825名 (連結932名)

## ■ 株式の状況

発行可能株式総数	46,800,000株
発行済株式総数	11,743,003株 (自己株式169,584株を除く。)
株主総数	12,014名

## ■ 株式の所有者別状況



※個人・その他には自己株式169,584株が含まれております。

## ■ 株主メモ

事業年度	毎年4月1日～翌年3月31日
剰余金の配当基準日	3月31日 (中間配当を行う場合は9月30日)
定時株主総会	毎年6月

## ■ 役員 (2026年6月26日現在)

代表取締役社長	加藤 公康
取締役 常務執行役員	渡邊 孝雄
取締役 執行役員	前田 英智
取締役 執行役員	加藤 友康
取締役 (社外)	國原 智恵
取締役 監査等委員会委員長	川上 利明
取締役 監査等委員 (社外)	座間 眞一郎
取締役 監査等委員 (社外)	木元 有香

## ■ 大株主 (上位10名・2026年3月31日現在)

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
株式会社りそな銀行	573	4.95
第一生命保険株式会社	489	4.23
株式会社日本カストディ銀行 (信託口)	391	3.38
加藤公康	362	3.13
加藤製作所従業員持株会	275	2.38
日本生命保険相互会社	228	1.97
BNY GCM CLIENT ACCOUNT JPRD AC ISG (FE-AC)	186	1.61
住友生命保険相互会社	186	1.61
JPMSPLC CLIENT ASSETS CL JPY	160	1.38
MORGAN STANLEY & CO.LLC	149	1.29

(注) 持株比率は、自己株式 (169,584株) を控除して計算しております。

単元株式数	100株
株主名簿管理人 特別口座管理機関 (同連絡先)	東京都千代田区丸の内一丁目3番3号 みずほ信託銀行株式会社 ☎0120-288-324 (土・日・祝日を除く 9:00-17:00)

**KATO** 株式会社 加藤製作所

本社 〒140-0011 東京都品川区東大井1丁目9番37号  
TEL : 03-3458-1111

